

科目区分	授業科目	概要
共通科目	看護理論	実践科学である看護学・看護科学の変遷を概観し、看護倫理の役割・意義、および今後の課題を探究する。また、世界の動きに注目し、西洋と東洋を超えて統合された看護理論と実践に適用可能な中範囲理論を追究する。
	赤十字人道援助論	赤十字の起源と歴史、基本原則、国際人道法、活動について国際社会における赤十字運動の意義と役割を通して人道援助の概念について学ぶ。特に人間の安全保障の視点からの MDGs から SDGs の取り組み、国際機関による人道援助の歴史と仕組み、行動規範、諸課題等について理解を深める。
	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	実験研究に不可欠となる動物およびヒトの生体で起こる現象を科学的に立証するための研究方法、生体反応など様々なバイオマーカーを利用した実験研究及び準実験研究の方法について教授する。
	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	臨床現場で介入による治療・ケアの効果をj得るために臨床介入研究を計画し、遂行するプロセスについて教授する。介入のための方法論や結果分析法などについて実践的に教授する。
	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発)	看護学における現象を探究するために、測定したい現象を概念化し、その概念を尺度化する尺度開発のプロセスと方法を教授する。さらに、看護学の基盤をj発展させるための尺度の活用方法について教授する。
	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究)	看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力をj培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、現象学的研究及びグラウンデッド・セオリー・アプローチのプロセスを展開できるよう教授する。
	科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力をj培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、文化人類学的研究プロセスを展開できるよう文化人類学領域におけるデータ収集、分析の方法論を教授する。
	科学的研究方法論Ⅵ (理論構築)	看護学と看護実践に有用な理論を構築するため、演繹的アプローチと帰納的アプローチを用いた理論構築方法、および理論の実践場面における活用方法について教授する。看護実践モデルを構築するまでのプロセスと慢性疾患看護の実践場面における活用方法について、具体例を用いながら教授する。
	臨床倫理論	臨床現場で遭遇する倫理的諸課題に対して、社会的ニーズの多様化に即した適切な対処ができるよう、臨床倫理および医療マネジメントの基本原則と重要概念を教授する。看護学の領域において、今後の医療における倫理的役割の重要性と必要性を理解し、医療倫理と医療マネジメントを応用実践できるように教授する。

科目区分	授業科目	概要
専門科目	看護人材開発特論	看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について学ぶ。さらに、看護の質を高め、継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論を探究し、課題を発見し、新しい知を構築する能力をj修得する。
	療養生活看護学特論	健康課題をもつ人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な技術、援助および教育方法などを探究する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。
	生涯発達看護学特論	生涯発達理論を基盤とし、人間の誕生から更年期までの対象において、それぞれの時期に必要な健康課題を明確にし、各段階に応じた生涯発達支援に向けた専門的な看護援助方法について、国内外の研究の知見をj交えて教授する。また、小児期にある子どもの健康障害が成長発達に及ぼす影響と慢性疾患をもつ子どもと家族の支援に関する生涯発達理論・概念を教授する。

	実践看護学特論	脳卒中やがんなど生活習慣病とともに療養生活を営む人間や健康に対する諸理論や既存の研究成果を概観し、成長発達段階と健康障害のレベルを融合した観点から、その人がより健康に生活していくための健康上の問題や研究課題を探求し発見する能力を修得する。
	広域連携看護学特論	人々が地域・在宅において、心身の健康と質の高い生活を維持できるよう、状況に即した柔軟な看護ケアを継続的・シームレスに提供するための治療的環境整備の方法、地域社会連携の改善・変革、他職種との連携・調整の在り方についての問題や研究課題を探求する。
	災害救護特論	国内外の災害の動向と課題を探究し、災害医療や災害看護に関連する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。
	健康科学特論	地域や職域などの集団に介入して、そのウェルビーイングを高めることは、ヒューマンケアの目標のひとつである。このために、保健医療専門家は、集団を構成する多様な人たちの健康に関連する諸要因を、科学的・統計的に分析して、適切な介入方法を考察し、その実践をクリティカルに評価することが必要である。ここでは、国内外の知見を紹介し、全員で討議して理解を深める。
演習	看護学演習	看護学とその隣接領域において、国内外の文献を検討材料とし文献レビューを行い、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域において課題解決が必要とされるテーマ、研究課題の明確化及び研究方法を検討する。さらに、課題解決に必要なとされる理論と方法論、技法について実証的に探求する手法を習得する。
ゼミナール 合同研究	合同研究ゼミナール	学生個々が現段階で考えている研究テーマあるいは、関心のあるテーマに関する内容、方法、意義等について学生が学籍を置く大学で個人指導を受け、その成果を集合して、5大学の学生・教員の前で発表することにより、学生が学籍を置く大学での個人指導がさらに深まり、博士論文作成に向けた糸口の発見や研究を遂行する過程での課題が抽出されるなど、今後の方向性が明確となる。また、交流の場をもつことで、博士論文作成に引き続き取り組む上での研究者としての資質を培う。
特別研究	特別研究	関心ある専門領域の文献レビュー、研究の前提となる理論枠組みあるいは基盤を明確化し、テーマの選択、研究の目的、研究方法の選択、データの収集、結果の分析、考察など研究の一連のプロセス及び研究理論に基づいた研究の取り組みについて指導する。